

氏名	廣井 いずみ
よみ	ひろい いずみ
英字	Hiroi Izumi
プロフィール	臨床心理士、公認心理師。家庭裁判所調査官として少年事件、家事事件に携わる。関西国際大学、奈良大学を経て現職。
職位	特任教授
最終学歴	大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程修了
学位	学術博士
所属学会・役職	日本心理臨床学会 日本コミュニティ心理学会 日本犯罪心理学会 日本司法福祉学会 武庫川臨床教育学会
専門分野	臨床心理学、犯罪心理学、コミュニティ心理学、青年心理学
研究テーマ	元犯罪者の社会復帰プロセスと立直り支援、高葛藤両親を持つ子の能動的なライフスタイル形成の支援
主な教育・研究及び社会的活動及び業績	【著書】 非行少年の立ち直り支援 「自己疎外・家庭内疎外」と「社会的排除」からの回復（金剛出版、単著） 2015年 基礎から学ぶ犯罪心理学研究法（福村出版、共著） 2012年 【論文】 「居場所」という視点からの非行事例理解（2000） 心理臨床学研究，18（2），129-138. 第2の個体化期において，「橋渡し」としての父を体験すること（2003） 心理臨床学研究，21（5），484-495. コミットメントの視点から見た離婚調停の援助方法について（2006） 心理臨床学研究，24（1），1-11. 環境調整命令に見る非行化のプロセスと立ち直り支援（2012） 司法福祉学研究，12，12-30. 子の反社会的問題で悩む母親のイラショナル・ビリーフの変容過程（2013） 司法福祉学研究，13，45-65. 非行経験者が援助要請を行うまでの他者との体験過程について：非行経験者の手記の分析から（2018） 奈良大学紀要，47，93-107. 犯罪経験者の援助要請研究について望まれる観点－ACEs体験とアタッチメント理論の観点から－（2020） 臨床教育学論集，12，103-113. 援助要請・サポートを通してみた元非行少年のコミュニティ参入過程（2024） コミュニティ心理学研究，28(1)，18-37. 【競争的資金】 2015年度基盤研究C 研究代表者 「人とつながる力」に焦点をあてた非行少年の社会復帰支援に関する研究 2018年度基盤研究C 研究代表者 矯正・更生保護処遇終了者の社会復帰支援 ―援助を受ける者から援助要請する者へ― 2021年度基盤研究C 研究代表者 コミュニティを基盤とした非行少年の社会復帰プロセスの理解と支援に向けた検討